

2016年度 事業計画

1. 当協議会を取り巻く状況

2016年度は、景気回復への足取りが不透明な中で、中国経済の減速、円高・原油安、マイナス金利など経済指標の停滞、さらにはアラブ・中東諸国はじめ世界各地での地域紛争など多くの不安を抱えた世界情勢の下で開幕しました。

国内でも、2017年からの消費税の10%引き上げへの懸念や、年度初に発生した熊本地震など自然災害への不安等々の様々な課題を抱えてスタートしました。

さらに、2015年12月にEUが示したResource Efficiency (RE:以下、資源効率)プログラムを機に、天然資源の有効活用に向けた論議が急進展し、2015年のエルマウサミットに続いて、2016年5月の伊勢志摩サミットでも、資源効率の追求と3Rの推進が重要な課題として議論されると見られ、近い将来、資源の有効活用に向けた資源循環と3Rの推進が、世界レベルでの重要課題になることが確実視されています。

そうした中で、1年半の中断を挟んで再開された容器包装リサイクル法(以下、容リ法)の見直し審議が2016年3月で終了し、最終取り纏め<容器包装リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する報告書・案>に対するパブリックコメントが募集されました。

今回の見直し審議では、直ちに法改正に繋がる結論には至りませんでした。次回の見直し審議に繋がる様々な論点が議論され、容器包装リサイクル制度のあるべき姿に向けた課題が示されました。

特に、私どもプラスチック容器包装(以下、プラ容器包装)に係る特定事業者にとっての最大の関心事であるプラ容器包装の再商品化の改善・高度化と社会的コストの効率化に向けた取り組みの具体的な方向が示されました。

例えば、リデュース・リユースの推進、市町村と特定事業者の役割分担・費用負担、や合理化拠出金制度の在り方、プラ容器包装の分別収集・選別保管や再商品化の在り方、回収ルートが多様化、PETボトルの国内循環などです。

なかでも、プラ容器包装の分別収集・選別保管や再商品化の在り方、材料リサイクル(以下、MR)優先の入札制度などが最大の論点となりました。

当協議会では、2012~2015年度を、今後の容リ制度と当協議会の方向を決める重要な期間と位置付け、法見直しへの的確で適切な対応を基本姿勢として取り組んできましたが、2016年度は、これまでの当協議会の提言や法見直し審議会の最終取り纏めを踏まえ、プラ容器包装に係る特定事業者の立場から、的確で適切な対応を果たす年と位置づけ、これまでと同様に積極的に取り組んでまいります。

具体的な活動は、企画運営委員会をはじめ4専門委員会を軸に、①法見直し審議会の最終取り纏めを踏まえた諸課題への対応を最優先課題とする、②プラ容器包装の再商品化の効率化、高度化に向けた具体策の策定・支援、③諸外国の仕組み等も参考に我が国に最適なプラ容器包装リサイクルシステムの継続的な検討、④関係各主体

との連携や市民、自治体への広報・啓発活動の継続的取り組み、⑤プラ容器包装の環境配慮設計や第3次自主行動計画の推進など3R活動に取り組んでゆきます。

また、容器包装8素材団体が構成する3R推進団体連絡会とも連携してまいります。

2. 事業計画

2-1. 見直し審議の取り纏めを踏まえた今後の容り法への対応

2016年度は、法見直し審議会の最終取り纏めを踏まえた的確で適切な対応、特に特定事業者としての役割や責務を適切に果たすとともに、中長期の展望に立ったあるべき容り制度への道筋を示して行くことを最大の課題と位置付けます。

今回の法見直しに際しては、昨年同様に政策専門委員会・法見直し対策WG（以下、法見直しWG）及び容り再生材に関する懇談会（以下、再生材懇談会）、ケミカルリサイクル研究会（以下、CR研究会）等を軸に対応し、必要に応じて各専門委員会も対応して頂き、重要課題は企画運営委員会で方向付けしてまいります。

2014年秋から、MRの高度化について検討している再生材懇談会では、MR再生材の品質の安定と高度化のための自主的な基準として物性測定シートを作成しましたが、2016年度はこれをさらに深掘してゆきます。

さらに、見直し審議の最終取り纏めに対するパブリックコメントを提出するなどプラ容器包装の再商品化の高度化と社会的総コストの低減を目指します。

具体的には、定性的、定量的データ等に基づくプラ容器包装の再商品化の効率的、かつコストの最小化に向けた取り組みを進めたいと考えております。また、昨年度に計画し、今年度初に派遣した韓国視察に続いて、状況を見ながら欧州の最新動向の視察・調査も計画したいと考えております。

また、経済産業省（以下、経産省）、環境省、農林水産省（以下、農水省）など関係省庁との緊密な情報交換や、（公財）日本容器包装リサイクル協会（以下、容り協会）との連携・協力など、関係諸機関との連携にも取り組んでまいります。

具体的には、①経産省、環境省、農水省等との情報交換や実証事業等への参画・協力、②容り協会との連携・協力、③当協議会独自の調査や実証事業等を通して定性的、定量的データの整備等を図り、あるべき容り制度への工程や目標の策定などを進めてゆきます。

2-2. 第3次自主行動計画の推進

2016年度から第3次自主行動計画（2016－2020年度までの5年間）がスタートします。第3次計画の目標はリデュース率15%、再資源化率46%です。

第3次自主行動計画の目標

	目 標	基準年度	2014 年度実績
リデュース率	15%	2004 年度	13.9%
再資源化率	46%	2010 年度	44.8%

2016 年度は、前年に引き続いてリデュース率、再資源化率の把握精度の向上に向けて関係者との連携を図り、3 Rの一層の深化に取り組みます。

なお、第2次自主行動計画の最終年度である 2015 年度のフォローアップ報告は、2016 年 12 月に公表の予定です。

また、2015 年秋に策定したプラ容器包装の環境配慮設計指針に沿って、会員団体毎に具体的な取り組みについて検討頂いており、2016 年度上半期には各団体の具体的な取り組みが始まる予定です。

なお、第3次自主行動計画に際しては3 R推進団体連絡会とも連携してゆきます。

2-3. プラ容器包装の3 Rと環境配慮設計の自主的取り組みの推進

3 R推進は、容り法に謳われている重要な課題です。プラ容器包装に関しては、プラ素材の特質やリサイクル適性など、市民や自治体関係者の理解が十分ではないことが多く、市民、自治体関係者への啓発が求められています。

また、容器包装の機能や3 Rと環境配慮設計など事業者の自主的取り組みの推進も重要な課題です。

プラ容器包装の3 Rと環境配慮設計の推進に向けて、2016 年度は3 R推進専門委員会を中心に、主に以下の課題に取り組みます。

- ① 環境配慮設計を事業者自らが推進するために、2015 年度に纏めた環境配慮設計指針に沿って、2016 年度上半期を目途に各会員団体で当該業種毎の取り組みを検討頂いております。この指針は、事業者がプラ容器包装の環境配慮設計を進めるための指針で、事業者の自主的取り組みに資するものです。
- ② 第3次自主行動計画がスタートしますが、その計画概要を会員各位に周知し、新たな自主行動計画への取り組みを推進するとともに、第2次自主行動計画の2015 年度のフォローアップ結果を集計します。集計に際しては、3 R推進専門委員会と自主行動計画WGを中心に進めてまいります。
- ③ 2015 年に発刊した活動報告書<プラねっと>の2016 年度版の作成を、広報・啓発専門委員会と連携してWGを設けて進めます。このプラねっとには、2015 年度下半期からの活動の概要と3 R改善事例などを紹介します。
- ④ 学識者など外部有識者との連携・意見交換も進めてゆきます。

2-4. 各主体との連携、協働の推進

2-4-1. 市民、自治体との連携：意見交換会

2012年度から開催してきた市民、自治体と事業者の意見交換会を、2016年度は、青森市と大阪府豊中市など2都市で開催を計画しています。

この意見交換会は、2012年度から年3回、通算で12回開催し、市民、自治体の方々との直接の対話を通して、相互の理解と連携・協働への着実なステップが図れる場として位置づけました。今回の法見直し審議でも主体間連携の具体的な方策とのひとつとして紹介されました。

また、2015年度には、過去3年間の意見交換会の総括を行い、これまでの成果と課題、今後の取り組みなどを、抽出しました。

2016年度以後、抽出した課題点などを踏まえて、さらなる取り組みを進めていきたいと考えております。

こうした取り組みを通して、プラ容器包装の機能・特性や3Rの啓発が進展すると期待され、今後も当協議会の重要な取り組みとして位置づけてまいります。

なお、次項の通り、3R推進団体連絡会でも、市民、自治体等との意見交換会を計画しており、同連絡会との連携を含め、主体間連携への深化を図ります。

2-4-2. 3R推進団体連絡会との連動

容器包装8素材団体で構成する3R推進団体連絡会の活動にも、積極的に取り組みます。

3R推進団体連絡会では、2016年度は、第3次自主行動計画のマスコミ広報による周知徹底及び第2次自主行動計画の最終のフォローアップ報告、3R推進フォーラムの開催、市民・自治体等との意見交換、市民リーダーの育成や市民団体との協働、学識者との連携などを計画しており、当協議会も3R推進団体連絡会の一員として連携して行きます。

なお、2016年度は、輪番により当協議会が3R推進団体連絡会の幹事長をつとめます。

2-5. 広報・啓発活動の推進

2-5-1. 広報・啓発活動の更なる推進

広報・啓発活動は、当協議会の重要な活動であり、2016年度も、広報・啓発専門委員会を中心に、市民・自治体との意見交換会、エコプロなど展示会への出展、ホームページ(以下、HP)の充実などの課題に取り組みます。

- ① プラ容器包装の3Rに関する率直な意見交換や連携・対応の場として市民・自治体との意見交換会を、2016年度は2回開催します。
- ② 国内最大規模の環境イベントであるエコプロ展に、本年は当協議会として出展します。単独出展するのは、プラ容器包装の機能や特質、再商品化の在り方、3Rへの取り組みなどを広く広報啓発する必要があるとの判断によるものです。

エコプロ展には、2015年は容リ協会のブースに、紙製容器包装、PETボトル、

ガラスびん及びプラ容器包装の各リサイクル推進協議会が出展協力しましたが、PETボトルとガラスびんは、元々単独出展していた上、容リ協会の出展方針の変更もあり、昨年度から当協議会としての単独出展を検討しておりました。

なお、エコプロ展については、3R推進団体連絡会も出展しており、今後も従来通り、連絡会として出展します。

- ③ 当協議会のHPは、2014年8月に13年ぶりに全面リニューアルし、好評を頂いておりますが、さらにその充実に取り組んで参ります。
- ④ 会員向け情報提供ツールとして2013年度から始めたメールニュースは、2016年4月で第46号を数え、活動予定や各種活動報告など、会員への情報提供ツールとして、本年度も継続して発信します。

2-5-2. 3R推進セミナーの開催

2015年度は、会員各位への情報提供の一環として、定時総会での記念講演をはじめ、8月と2月に開催したほか、12月と3月にセミナーに代わってリサイクル関連施設の見学会を開催し、多くの会員の方にご参加頂きました。

2016年度も、継続的に3R推進セミナーを開催する計画で、7月、11月、2月を目途に計3回の開催を予定しており、会員各位への情報提供に、一段と取り組んでまいります。

2-5-3. エコプロ展など各種展示会等への参加

2016年度のエコプロ展への出展については、前項の通りですが、その他様々な展示会への出展にも対応し、プラ容器包装の3Rについて広報活動を行います。

2-6. 技術的課題への取り組み

各委員会での活動に伴い発生する技術的な諸課題への対応や関連する情報収集・提供については、必要に応じて技術・情報専門委員会で取り組みます。

昨年度は、12月と3月にリサイクル関連施設の見学会などを開催し、技術的な視点からの最新情報を提供しました。これも技術・情報専門委員会の活動の一環です。

2016年度も技術的課題に関する評価・報告、新技術の情報収集・提供、各専門委員会への技術的助言、広報パンフレット作成への助言などに取り組めます。

2-7. 会員の加入拡大の取り組み

2016年度は、昨年度に引き続いて、会員の加入拡大に向け、積極的な活動を進めてまいります。2015年度は、1団体3企業が退会されましたが、更なる会員の加入拡大に努めてゆきます。

今後、事業者の3R推進の取り組みを進めて行くには、サプライチェーン全体

での事業者連携が必要であり、原材料、容器製造、容器包装利用、流通小売りまで幅広い会員の加入を進めてまいります。会員各位のご協力をお願い致します。

2-8. 日常的な対応

外部からの問い合わせ、行政との対応、関係団体との対応等、積極的に対応して行きます。

また、事務局体制の整備・充実にも取り組めます。

以上